

～自然の港湾や林野など多自然川づくりで流域治水を推進～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、吉野川・宇川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

対策内容

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備
- ・河川等維持管理
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■ 被害対象を減少させるための対策

※対策が実施され次第、掲載を予定

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備
- ・被災自治体に対する支援の充実
- ・緊急車両の移動経路の確保

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進

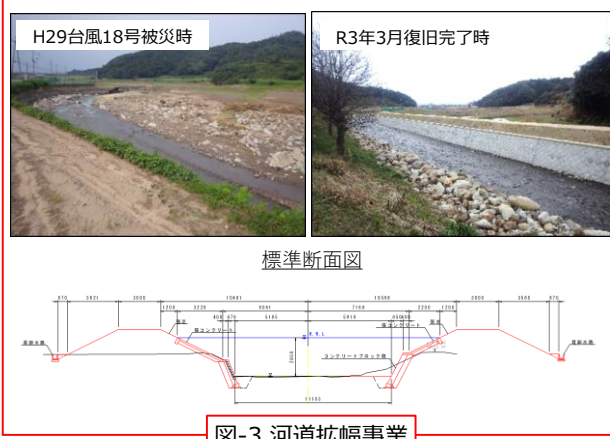
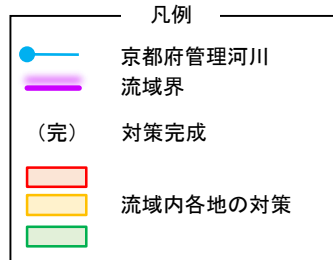


図-3 河道拡幅事業



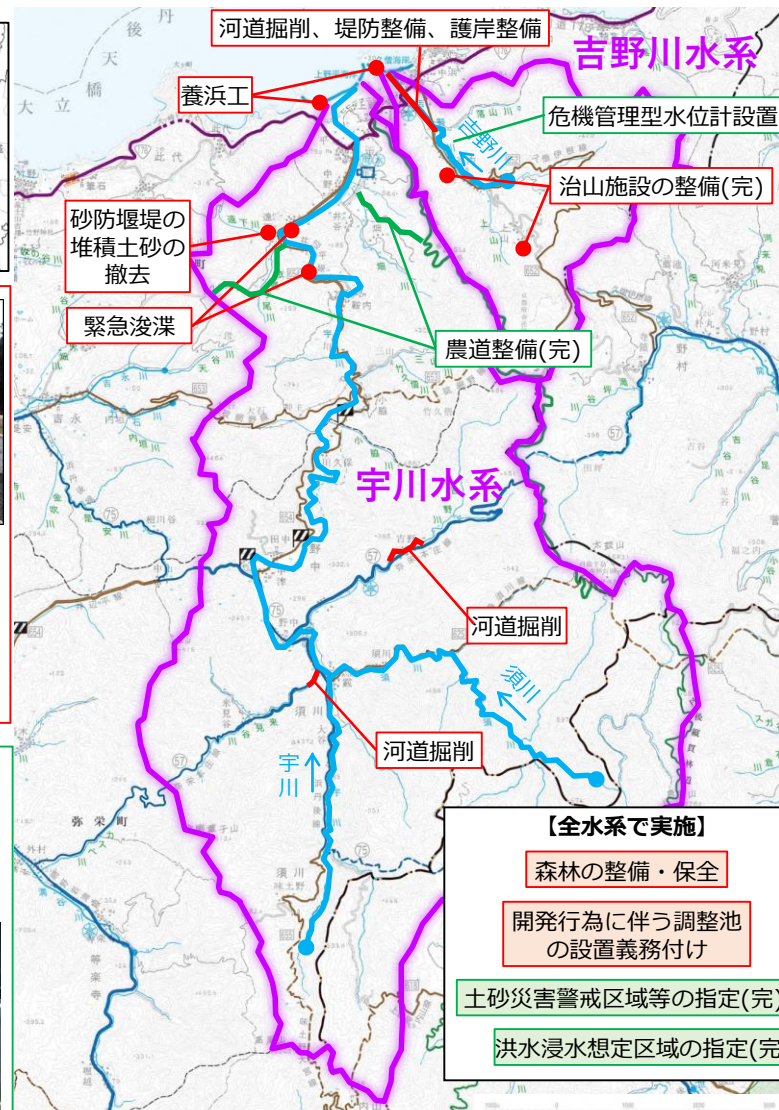
図-1 ハザードマップの作成・普及 (提供：京丹後市)



図-2 マイタイムラインの作成・推進 (提供：京丹後市)























図-4 地域と連携した訓練・研修 (提供：京丹後市)



- 【全水系で実施】
- 森林の整備・保全
 - 開発行為に伴う調整池の設置義務付け
 - 土砂災害警戒区域等の指定(完)
 - 洪水浸水想定区域の指定(完)

※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

- 吉野川・宇川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川整備により、河積を広げる河道拡幅を行うとともに、「流域の雨水貯留機能の向上・保全」を実施する
 - 【中長期】河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期(令和4年度～令和8年度)	中長期(令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等整備	京都府		
	河川等維持管理	京丹後市		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	宮津市、京都府		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白地帯の解消	京丹後市、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	京丹後市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	京丹後市		
	被災自治体に対する支援の充実	京丹後市		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進